

新潟市授業づくりサポート ver.1

令和5年度12月作成
新潟市教育委員会

新潟市の教職員の皆様へ

この資料は、各学校園の教職員の皆様の授業改善を後押しするために作成しました。

教育の在り方が大きく変化している現在、新潟市教育委員会が大切にすべきと考えた、教育の在り方と授業づくりの視点、指導、支援の在り方等をまとめました。

その際、新潟市の先生方が積み上げてこられた授業実践の「これまでの強み」をもとに、「これからの視点」を取り入れていくことを考慮しています。

教職員の皆様や各校園の実態に応じて、適宜資料の必要箇所を活用・参考にすることで、子どもたちが生き生きと学ぶ姿の実現や資質・能力の育成に向かうことを切に願っています。

新潟市が目指す教育

(1) 新潟市が目指す子どもの姿

人とかかわることを通し、
自ら判断・決定し、
夢や目標の実現に向かう姿

(2) 新潟市が目指す学校教育

「多様性」を前提とし、
全ての子どもたちの
「自分らしさ」が発揮され、
「可能性を引き出す」教育

新潟市が目指す授業のあり方

(1) 「可能性を引き出す」指導・支援の視点

これまでは、社会の要請により左側「これからも」が重視される傾向があり、過去には成果を上げることもありました。

社会も変化し、日々の授業や学校全体で、右側「これからは」の重要性が強調され、新潟市でもそれらを意識して学校教育を展開していきます。

これからも

先生主導

先生が決める

先生が教える

先生が評価

教師-児童生徒 中心

一斉一律 (同じことを同じペースで)

正解は一つ

よいか悪いか

画一的 (みんなが同じ姿)

失敗させない

Must/Should

これからは

子ども主導

子どもに委ねる

子どもが学び取る

子どもが評価

児童生徒-児童生徒 中心

個別化・個性化

正解はない

最適解・納得解

多様性 (みんなが違っていい)

Try and Error

May/Can

二項対立ではなく、目指す子どもの姿に願いを込めて「これからも」も大切にしながら、「これからは」の視点で、私たち教師が全ての子どもたちの可能性を引き出すために、柔軟で多様な指導方法で授業を展開していくことが大切です。

(2) 新潟市が目指す授業づくり



新潟市の授業づくりは、「新潟市学校園教育の推進」の【目標1】に基づき、

資質・能力の育成のための「主体的・対話的で深い学びの視点での授業改革」と、それを支える「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」による授業の質の向上 を目指して取り組んでいきます。

① 単元デザインと「学習課題とまとめ、振り返り」、 アウトプットのある授業の推進

「主体的・対話的で深い学びの視点での授業改革」は1時間の授業内だけでなく、単元全体を通して目指していきます。子どもが「何を学ぶのか」、「どのように追求していくのか」、そして「何が分かったのか」を自覚できるように、単元全体を構想することが大切です。

② 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の推進

子どもが学習の主体となって、自ら学ぶことの楽しさを味わうことができるよう、授業において子どもが自己選択・決定できる場面を少しずつ増やしていきます。その際、これらの学習を支える基盤的なツールとして重要なのが、ICT端末です。情報活用能力の育成の視点をもって、学校や中学校区単位で、資質・能力を育みます。

③ 授業と生徒指導の一体的な充実の推進

「自己決定の場の提供」「自己存在感の実感の促進」「共感的な人間関係の育成」「安心・安全の居場所づくりへの配慮」を意識した授業を通して、自己指導能力を高め、子ども一人一人の自律性と社会性を育成することにつなげます。

目指す資質・能力の育成

主体的・対話的で深い学びの視点での授業改革

P1

【授業づくりで大切にしている視点】

基盤：教師と子どもとの信頼関係

- 各授業：1 何を学ぶのか
2 何をどう追求*するのか
3 何を学んだのか

*追求・・・「つきゅう」の
文言は、教科によっては
「追究」と示す場合があり
ますが、本サポートでは
「追求」と表記します。

を、すべての子どもが自覚する

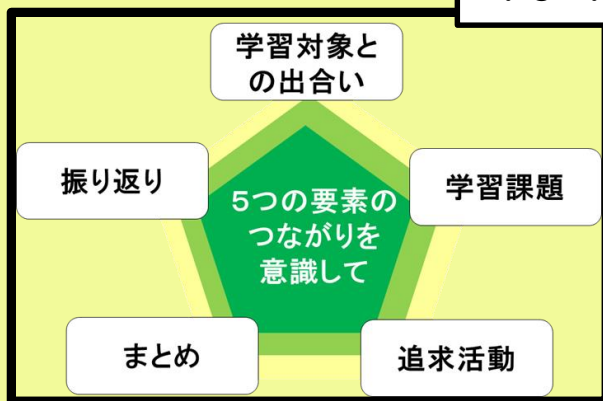
P4

【单元デザイン】 意図的・計画的な資質・能力の育成

P2~P3

【確かな学び】 (これまでの強み)

P5~P8



子どもが追求意欲を高め、
すべての子どもに分かりやすい

【個別最適な学びと協働的な学び】
(これからの視点)

P9~P12



自己決定・自己選択しながら、
自ら学びを進めたり、協力して
学びを進めたりする

情報活用能力の育成

P13~P17

指導技術

P18~P43

授業と生徒指導の一体化 学級の支持的風土

P44~P54

目 次

I	授業改善の視点	
1	主体的・対話的で深い学び	1
2	単元デザイン	2
3	授業づくりの要件	4
4	確かな学びの5つの要素	5
		これまでの強み
5	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実	9
		これからの視点
II	学びを支える資質・能力 ～情報活用能力の育成～	
1	情報活用能力を育成する基本的な考え方	13
2	育成を目指す情報活用能力とは	14
3	情報活用能力を発揮しながら学ぶ自立した学習者のイメージ	15
4	情報モラルを高めている学習者のイメージ	16
5	情報スキル・プログラミング能力目標体系表	17
III	指導の基礎基本	
1	学習内容の共有手段（例）	18
2	学習内容の記録手段（例）	19
3	指導技術	22
4	指導案の書き方	41
IV	授業と生徒指導の一体化、集団づくりの視点	
1	授業と生徒指導の一体化	44
2	集団づくりの視点～学級の支持的風土～	49